

財産の状況

『貸借対照表』は、企業の財政状況を明らかにするため保有する全ての『資産』、『負債』、『資本』を分けて表示した決算資料の一つで、貸借対照表では、どのような資産があるのか、また、その資産に対して

どれだけの部分を負債で賄っているかを確認することができます。

企業債の状況

安定した水の供給を維持するためには、必要に応じ、浄水場や配水管などの水道施設を整備し、老朽化する施設を計画的に更新する必要があります。

貸借対照表

(平成31年 3月31日現在)

区 分	金 額	区 分	金 額	
資産	固定資産	76億6,182万円	固定負債	41億3,383万円
	有形固定資産 (建物・配水管・水道メーターなど)	76億6,163万円	企業債	41億3,297万円
			その他固定負債	86万円
			流動負債	5億 441万円
	無形固定資産 (電話加入権)	19万円	企業債	2億8,897万円
			未払金	1億3,714万円
	流動資産	7億4,930万円	前受金	57万円
			引当金	922万円
			その他流動負債	6,851万円
			繰延収益	6億8,783万円
現金預金			6億7,587万円	
負債	7,243万円	長期前受金	17億1,634万円	
		収益化累計額	△10億2,851万円	
		資本金	24億9,828万円	
		未収金 (未納水道料金) ※貸倒引当金除く。	97万円	
貯蔵品 (たな卸資産)	3万円	剰余金	5億8,677万円	
		資本剰余金	1,965万円	
		利益剰余金	5億6,712万円	
その他流動資産	3万円	負債・資本合計	84億1,112万円	
資産合計	84億1,112万円			

今後の見通し

平成30年度は、収益的収支で4千190万円の純利益を確保できたものの、給水人口の減少に伴う年間給水量の減少などにより、平成29年度と比較すると、2千165万円、34.07%の大幅な減少となっており、また、資本的収支については、例年と同様に生じた不足額を収益的収支で生じる損益勘定留保資金などで補てんしていることから、今後も経営環境はより一層厳しくなるものと予想されます。このような現状を踏まえ、平成31年4月1日に、今後4年間の事業運営に最低限必要な水道料金の改定を行いました。これにより4年間は健全な経営が見込まれる一方で、給水人

ります。整備には、多くの資金が必要となるため、国などから借り入れを行っており、水道料金の一部から返済しています。水道事業では、この借入金で「企業債」と呼んでい

平成30年度に実施した主な水道施設工事

区 分	工 事 内 容	事業費 (消費税を含む)
送配水管 新設工事	水道水の安定供給を図るため幹線となる配水管などの設置工事を行いました。	666万円
送配水管 改良工事	赤水発生の解消や地震などの災害に強い水道施設の整備を図るため、老朽化した配水管の改良(更新)工事を行いました。	1億1,189万円
水道 メーター 取替工事	計量法で定められている水道メーターの取り替え(8年ごと)の工事を行いました。	3,996万円

口の減少や節水型社会への移行による給水収益の減少、将来を見据えた建設投資の増加も見込まれ、厳しい経営状況が依然として続くものと思われませんが、支出の削減や未収金の解消など、経営努力を行い、経営健全化に努めてまいります。市は、今後も水道事業の経営状況などについて、広報紙などで市民の皆さんにお知らせしますので、水道事業へのご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ
水道グループ
(☎855501)

